

## 「秋に見える夏や冬の星座」

季節はすっかり秋になって、星空の様子も完全に秋になりました。「秋の星座」というのは、9月から11月の、夜8時~10時ごろに、およそ子午線(真南)または天頂付近に見える星座をさします。オリオン座のように派手な星座もないし、シリウスのような輝星もありません。目立つのは、天頂付近に長方形の大窓を開けた「ペガサス座」と北天の「カシオペア座」ぐらいでしょう。そんなわけで、「秋の星空は淋しい」とよく言われますが、まあ仕方のないことです。

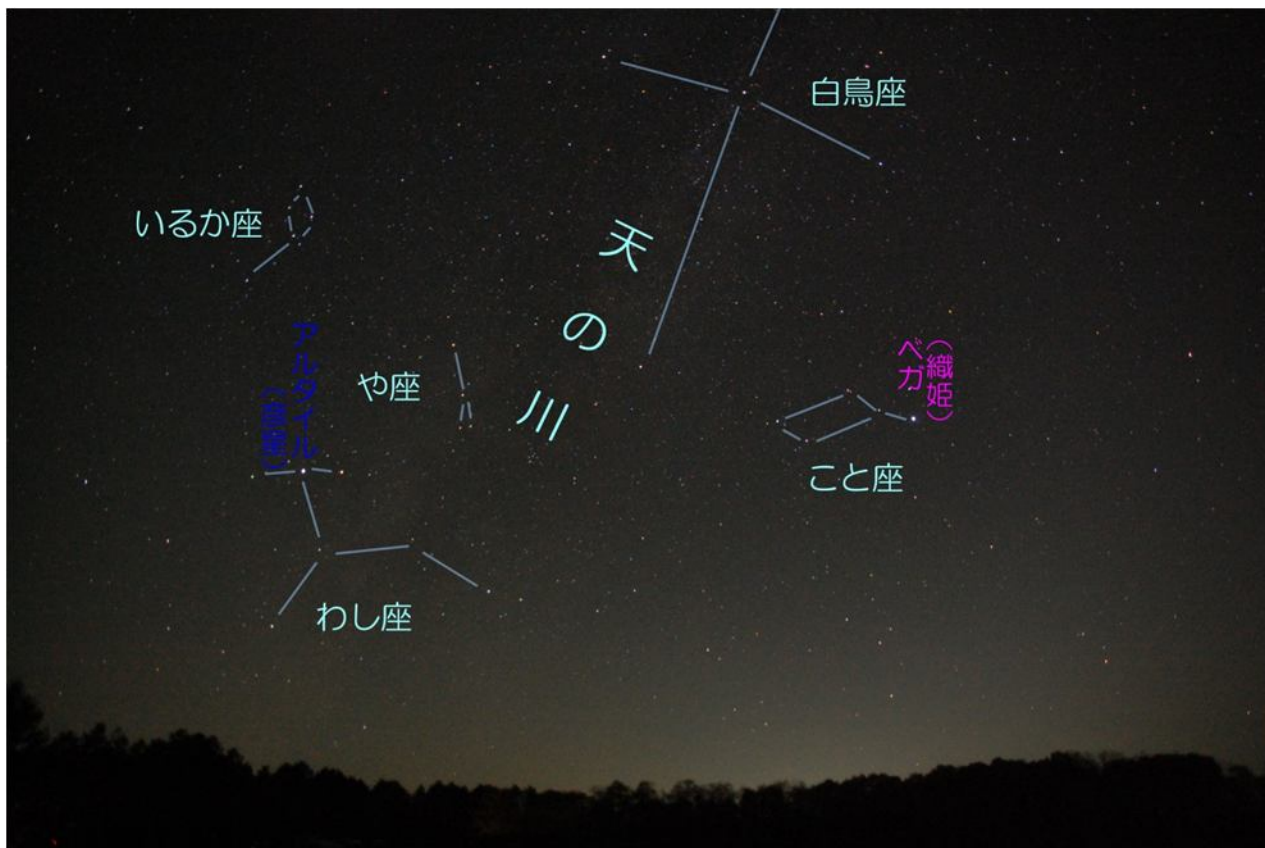
ではその時期に「夏の星座」が見えないか・・・というのと、そんなことはありません。さすがに天の赤道(赤緯0度)に近い星座・・・例えばいて座やさそり座は、すっかり姿を消していますが、夏の大きな三角形なんかは、まだ西の空にがんばっています。高原ではすっかり晩秋になった10月25日、この晩は月がなく完全な暗夜でした。私は三脚と赤道儀を軽自動車のトランクに載せて、山荘近くの牧草地に、沈みゆく夏の星座たちを撮影に行きました。気温は5℃以下・・・防寒具が必要でした。秋に見える、夏や冬の星座を、どうぞお楽しみください。



### 「沈む夏の星座」

北軽井沢の牧草地から見た、西の星空です。この晩は、月明が全くない暗夜だったので、天の川がバカみたいによく見えました。この写真は実際の肉眼での見え方に近いと思います。天の川の一部分が暗く写っていますが、これは「銀河の腕」が枝分かれしているからです。夏の星座(こと座、わし座、いるか座、白鳥座の一部など)が写っていますが、どれだけ探せますか?

2014, 10, 25 / 北軽井沢 / ニコン D40 / ISO1600 / 露光 30 秒 / タカハシ P2 赤道儀使用



「前のページ写真の解説図」 七夕から3か月以上たっているのに、織姫と彦星はまだ恋しています。こういうふうには、星空に星座を思い描けると、天体観望はずっと楽しくなります。



反対側の東の空には、すでに冬の星座が見えていました。オリオンが頭を左側にして昇ってきます。  
 (お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋)